

## アオアシシギ（シギ科） 全長32センチ

9月に入ると、県内の田んぼは、黄金色に輝きを増してきました。ここ大湊村は、広大な田んぼが広がる全国有数の穀倉地帯である。

1日、西部承水路近くの農道を進むと黄色く色づいた風景の中、一か所だけ黒い土が見える水を張った田んぼが見つかった。ダイサギやアオサギが10数羽も見つかったので、もしかすると昆虫類を好むシギチドリ類がいるかもしれないと期待が高まった。遠目ではハッキリと種の確認できないが、シギ類が田んぼの中を歩き回っている。



水張りたんぼはお気に入り。長い脚と尖ったクチバシは、水辺で餌を探すのに適しているのでしょう。

飛び去られないよう慎重に距離を詰め、約200メートルから眺めた。望遠鏡で確認すると、大きい方がアオアシシギで小さい方はタカブシギのようだ。大きさが違いますがどちらも見た目はよく似ています。9羽のシギはお互い離れずに、クチバシを泥の中に差し込みながら、餌を探している。ミミズや水性昆虫などが御馳走でしょう。



泥の中を軽快に歩き、餌を探す。



片足立ちしながら、伸びをする。(右端)

見渡す限りの広大な圃場の中にアオアシシギ、タカブシギ、トウネン、コサギ、ダイサギなど数10羽が集結する水張り田んぼ。野鳥達にとってここは、餌が得やすく外敵が少ない安全な餌場でしょう。間もなく始まる秋の農作業で大潟コンバインが周辺を賑わいます。残された短い期間がシギ類の楽園です。



手前の2羽はタカブシギ。



クチバシを泥に差し込み採餌するタカブシギ。